

2020年度(令和2年度)事業報告

(1) 土壌医の会を巡る状況

① 土壌診断の推進

2020年度より農林水産省の補助事業である「データ駆動型土づくり推進事業」(3か年計画)がスタートし、(一財)日本土壌協会(以下、協会)、土壌医の会全国協議会(以下、全国協議会)、(株)NTTデータ、関係県等による土壌診断データベース構築推進協議会が事業主体となって実施された。全国協議会や協会は産地の選定、土壌の調査測定とともに土壌診断に基づく処方箋の作成を行った。

② 土壌医検定試験の試験申込者数

2020年度は2,857名で、昨年2,765名に比べて92名増加した。級別では1級41名減、2級13名増、3級120名増であった。コロナ禍の状況下で、会場の変更、受験対策研修会の一部中止をしたが、増加させることができた。

職業別等で見ると、最近、企業関係者の受験者数が減少傾向にある一方で、農業大学校生の受験者数が増加傾向にある。農業者(含む農業法人)は、本年度は若干減少したが、昨年度まで4年連続で増加しており、最近の傾向から増加基調にあると考えられる。今後一層、若年層や農業者等に重点をおいたPRや支援活動が必要である。

また、農業高校生については受験者数が最近伸び悩み傾向にあったが、本年度は新規の受験校が増えたこともあり増加した。

③ 土壌医の資格登録者数

2021年3月現在3,762名で、昨年3月の3,698名から64名増加した。登録期限切れ、更新手続きの遅れ等が当面の増加の阻害要因となっているが、基本的には2級、3級合格者の資格登録率の低さが大きな要因となっている。

④ 資格登録者を中心とした土壌医の会の数

会の数は増加してきており、事業体土壌医の会は16組織で、土壌医の会の合計が36組織となった。

⑤ 会員の研鑽

2020年8月に「土壌医資格登録と継続研鑽に関する要綱」が一部改正され、i. 現地圃場の土壌調査・測定を通じた農家等への診断指導(諸準備を含む) ii. 協会ウェブサイト(土壌医ネットワーク)で提示される演習問題への回答が単位申請の対象になった。i. 現地圃場の土壌調査・測定を通じた農家等への診断指導については、「データ駆動型土づくり推進事業」での貫入式土壌硬度計による測定に基づくアドバイスに取り組む例が多かった。

また、ii. 協会ウェブサイト(土壌医ネットワーク)で提示される演習問題への回答については、20問の択一式問題、事例研究が問題として出された。コロナ禍によって研修会等の開催が困難な状況下で、多くの方が参加された。(演習問題130人、事例研究70人)

(2)活動経過

昨年度はコロナ渦の中で活動がかなり制約されたが、全国協議会は協会と連携して次の活動を行った。

1) 土壤医の会の会員等の研鑽、交流活動の促進

①「データ駆動型土づくり推進事業」の実践や研修会を通じた研鑽機会等の拡大 (会員の土づくり診断能力等の向上と農家等との交流機会の拡大)

「データ駆動型土づくり推進事業」は、12 県で実施され、3,305 圃場で調査分析が行われた。事業の実施には 11 の土壤医の会や会員が参加した。事業実施地区では、極力、オリエンテーションの開催に際し、県内の会員の参加を呼び掛けるとともに、現地で土壌物理性の見方等について、土壤医の会の会員、関係農家や関係機関の方々を対象にした現地説明会で協力した。

②資格登録者数と土壤医の会の組織化推進

土壤医等資格登録者数については、2021 年 3 月時点で前年同月と比較して全体として 64 名増加している。内訳として土壤医が 59 名、土づくりマスターが 85 名増加しているが、土づくりアドバイザーについては 80 名減少している。

また、土壤医の会の組織化については、2020 年 4 月以降、2021 年 3 月までの 1 年間で新たに 5 組織(うち 2 組織が地域土壤医の会(秋田土壤医の会、両総土壤医の会)が結成され、地域土壤医の会は 20 組織になった。

③「土壤医の会通信」の発行による会員間の情報交流の促進

(会員間の連携強化と土壤医の会会員となるメリットの向上)

2020 年度から土壤医の会との情報交流を密にしていくため、「土壤医の会通信」を発行した。(5 号発行)「土壤医の会通信」では、「データ駆動型土づくり推進事業」の動きや各土壤医の会の活動の動き、土壤医検定試験の情報などをタイムリーに提供した。

2) 農業者(含農業法人)、農業高校等への土づくり普及推進

①重点対象層への土壤医検定試験の PR と受験推進

土壤医検定試験の受験者は、最近、農業者(含農業法人)、農業大学校生や JA 職員が増加する傾向にある。

農業者(含農業法人)については、農林水産省の土づくりセミナー等を通じ土壤医検定試験の PR を行うとともに、「データ駆動型土づくり推進事業」の実施地区等において PR を行った。

また、各地域の農業者(含農業法人)や JA 職員等に対しては、地域土壤医の会が主体となって受験対策の研修会を行った。

②農業大学校等への出前研修の推進

農業大学校生の土壤医検定試験受験者は、長野、新潟、大分等の地域土壤医の会の努力により、それぞれの地域では年々増加している。

大分土壤医の会では大分県立農業大学校の生徒、教職員を対象に 2021 年 1 月 29 日、2 月 4 日の 2 回実施した。また、農業高校にも働きかけたが、新型コロナウイルスの感染リスクの問題から行われなかった。

③効果的な土づくりや土壌医制度のPRの推進

最近増えつつある新規就農者、市民農園の利用者等個別に捉えられない層には、SNS 投稿のように、手間や費用がかからず、大勢の人の目に触れる機会があるもの（facebook の農業者グループへの投稿等）に検定試験のPRをした。

また、土壌医の会の会員等に対して、土壌医検定試験の受験体験や会員になってからの農業経営や土壌診断実施上のメリットを記述したレポートを土壌医検定試験のパンフレットの付属資料として配布し、協会のHPにもアップした。

3)土づくり活動成果の向上等優良土づくり推進活動の推進

①土壌医会や会員業績のCPD申請状況

土壌医の会や会員の活動成果については、申請などによりCPD評価対象となった個人の業績レポートが22件、土壌医の会の活動で関係した会員のCPDがプラスの対象となったのは9土壌医の会であった。土壌医の会でCPDがプラス評価の対象となったところが増加した。

②表彰事業の実施と業績データの整備

優良土づくり推進活動の表彰制度では、個人部門で農林水産省生産局長賞1点、個人部門、土壌医の会部門にかかわらず、土壌協会会長賞4点、全国協議会会長賞6点の事業が表彰された。表彰された業績についてはマスコミ等で紹介された。

また、優良土づくり推進活動表彰事業等の優良事例については、これまでに表彰された事例等も加え、適切な診断と処方箋作成に必要なデータベースとして活用できるよう資料を整備した。

(3)各部会別活動

1)研鑽部会

全国協議会の行事として、全国交流大会の開催や日本土壌協会との共催による研修会等を実施した。

①第4回全国交流大会の開催

多くの方の関心の高いテーマの講演とともに正会員や土壌医の会の優れた活動成果の表彰と発表、情報交流を主な内容とする全国交流大会を開催してきたが、2020年度は、コロナ感染症対策から、参加人数を縮小して2020年11月30日(月)13:30~16:30、東京都千代田区立日比谷図書文化館4階のスタジオプラスで開催した。

②協会との共催による研修会などの開催

土づくり推進フォーラム講演会、土づくり推進シンポジウム(土づくり推進フォーラム主催(事務局:協会))を、全国協議会と共催で実施した。

また、全国協議会と協会との共催で実施する「中級・上級土づくり実践研修会」は、2020年10月26日(月)~27日(火)に千代田プラットフォームスクエアで開催した。参加者は18名であった。

全国協議会、開催地の土壌医の会及び協会と共催で実施する「初級・中級実践研修会」は、2020年11月7日(土)~8日(日)に片倉コープアグリ(株)筑波

総合研究所（土浦会場）と3月3日（水）～4日（木）開催予定の平塚会場は新型コロナウイルス感染症問題から中止した。

2) 調査研究部会

① 地域重要問題研究会の開催

地域において重要な課題をテーマとして最近の研究成果や現地での取り組み成果等を発表し、意見交換を行う地域重要問題検討会は、茨城土壤医の会に検討を依頼したが、新型コロナウイルス感染症の問題で取りやめた。

② 土壌診断を効果的に実施するための改善事例データベース整備

土壤医の会、正会員がより適切な診断と処方箋を作成していくため、表彰事業等の事例を蓄積し、データベースとして整備した。

3) 土づくり普及部会

① 土づくり普及のための農業大学校等への出前研修の実施

農業大学校からの要請に応じた出前研修は、大分土壤医の会は大分県立農業大学校の生徒、教職員を対象に2021年1月29日、2月4日の2回実施した。

農業高校については、協会と連携しこれまでのアンケート調査結果等から、出前研修に関心の高い農業高校等に対して働きかけたが新型コロナウイルスの影響もあって行われなかった。

また、近畿土壤医の会では、2021年3月17日午後、正会員以外の方を対象とした土づくり研修会をJAたじま八鹿総合営農園センターで実施した。

① 土づくりに関心の高い組織等に対する普及活動

pH、EC等の簡易測定診断相談会等、土づくり普及のための活動を通じ、土壤医検定試験・資格登録制度や土壤医の会についての認知度を高めるために、郵送でパンフレットを配布した。

また、昨年度と同様、農業法人等土づくりに関心を有する組織に加え、貸農園等の企業や利用者へ配布を行った。さらにSNS投稿によりfacebookの農業グループに検定試験案内を投稿した。

(4) 定例会議等の開催

1) 第1回幹事会(4役会議)

新型コロナウイルスの感染症拡大により4役会議を「文書開催」で行った。

◆日時：2020年7月28日（火）

◆出席者：野口会長兼研鑽部会長、上野副会長、長谷川調査研究部会長、猿田土づくり普及部会長の4役

◆議事

第1号議案 令和元年度事業報告(案)及び収支決算(案)について
(監査報告)

第2号議案 令和2年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
報告事項

(1) 令和元年度土壤医検定試験の実施結果と資格登録者等の概要

- (2) 農林水産省の補助事業「データ駆動型土づくり推進事業」の概要
- (3) 土壤医検定試験パンフレット、土壤医の会情報通信
- (4) 第2回幹事会、全国交流大会を開催の概要

議案決議については、7月20日付文書で4役に会議資料と議案決議承認書をメールで送り、4役から議案1, 2について異議なしの承認を得た。

7月29日に4役会議の承認結果と会議資料を役員にメールで送り了承を得た。
また、監事から令和元年度の収支決算書の監査の承認を得た。

2) 第2回幹事会

- ◆日時：2020年11月30日（月） 10:30～12:00
- ◆会場：東京都千代田区立日比谷図書文化館4階 スタジオプラス
- ◆出席者：幹事7名（総数12名） 監事2名 顧問2名 合計11名
幹事の委任状4名 事務局3名

開 会

会長挨拶 土壤医の会全国協議会 会長 野口 勝憲氏
来賓挨拶 (一財)日本土壤協会 会長 松本 聰氏

◆議 題

- (1) 2020年度事業の経過報告
- (2) 土壤医の会に関する要綱の改正について
土壤医資格登録と継続研鑽に関する要綱の一部改正について
土壤医の会等活動に対する助成要綱の一部改正と募集要領
- (3) データ駆動型土づくり推進事業について
- (4) 第4回全国交流大会の開催について等
- (5) その他

閉 会 会長挨拶 会長 野口 勝憲氏

3) 第4回全国交流大会

- ◆日時：2020年11月30日（月） 13:30～16:30
- ◆会場：東京都千代田区立日比谷図書文化館4階 スタジオプラス（定員60名）
- ◆出席者：協議会役員等9名、優良土づくり表彰制度受賞者6名、農林水産省農業環境対策課3名等 事務局3名 その他マスコミ 合計約30名

開 会

会長挨拶 土壤医の会全国協議会 会長 野口 勝憲氏
来賓挨拶 農林水産省生産局農業環境対策課 課長 横地 洋氏

議 題

- (1) 2020年度事業の経過報告
- (2) 優良土づくり推進活動の表彰式
 - 1) 審査講評
審査委員長 (一財)日本土壤協会 会長 松本 聰氏
 - 2) 表彰状と副賞授与

- ① 農林水産省 生産局長賞 1点
- ② (一財) 日本土壌協会 会長賞 4点
- ③ 土壌医の会全国協議会 会長賞 6点

◆個人部門 (受賞タイトルと受賞者)

- ・ 土壌診断に基づく施設葉菜類の生育改善 市原知幸氏
農林水産省生産局長賞
- ・ 子実用とうもろこしの土づくり効果の確認 金原伸大氏
日本土壌協会会長賞
- ・ 青果用さつまいも (安納いも) 生育不良ほ場における土づくり改善指導
下古立 正美氏 全国協議会会長賞
- ・ 有機農業における多品目野菜・米の安定生産に向けた取り組み
森 昭暢氏 日本土壌協会会長賞
- ・ 土壌診断に基づく VA 菌根菌を活用したネギ栽培指導
忠地真吾氏 全国協議会会長賞
- ・ 長芋栽培における連作障害の検証と効果的な有機栽培の確認
古畑俊治氏 全国協議会会長賞
- ・ 堆肥を利用した土づくりと堆肥コストの削減
小島智行氏 全国協議会会長賞
- ◆土壌医の会部門 (受賞タイトルと受賞者)
- ・ トマト青枯病の総合防除対策 青柳敦子氏ほか 2 名 (片倉コープアグリ
土壌医の会) 日本土壌協会会長賞
- ・ 群馬県藤岡市桜山公園における冬桜樹勢回復及び新植健全生育対策
小川孝行氏ほか 11 名 (日本肥糧土壌医の会)
全国協議会会長賞
- ・ 2019 年度活動実績 高山晃氏 (代表) 首都圏土壌医の会
日本土壌協会会長賞
- ・ 2019 年度活動実績 長谷川雅義氏 (代表) 新潟県土壌の会
全国協議会会長賞

3) 受賞者からの活動報告

- (4) データ駆動型土づくり推進事業について
- (5) 地域土壌医の会の活動報告
- (6) 部会活動報告

閉 会

会長挨拶 会長 野口 勝憲氏